

新構造社には冠をつけた**特別賞**が 91 回展現在 7 本ございます。

今回はその賞顕彰の概要を説明いたします。

○**寺畑賞**：(彫刻)

寺畑助乃丞：(明治 25 年～昭和 45 年:77 歳)

新構造社創立の功労者三村英一の精神に共鳴創立の一翼を担う。彫刻グループ「17 会」(トナカイ)を率い後継者の育成に尽力、新構造社彫刻部の礎を築く

○**本目賞**：(ほんめ賞：絵画)

本目勇市：(明治 37 年～平成 9 年:92 歳)

新構造社の育成者。永年三村代表の補佐を務め事務方の責任者として会の運営を支えてきた。今日会の隆盛有るのはその献身的な努力によるところが大きい。戦争中も会務、その歴史的資料を守り続け戦後の混乱期を乗り切り先導的役割を果たした。新構造社の盤石な体制を築いた大功労者。

○**何賞** (か賞：絵画)

何徳来：(明治 37 年～昭和 6 1 年：82 歳)

新構造創立の功労者、台湾出身の気鋭の洋画家として、本目氏とともに会の両輪的存在として、会の運営に当たる。又崇高な精神と卓越した指導力を発揮して本会作家の質の向上に意を尽くす

○**三枝賞**：(さいぐさ賞：絵画)

三枝惣太郎 (明治 4 4 年～平成 18 年:95 歳)

香川県小豆島出身、東京芸大 (彫刻科塑像部) に入学し在学中の昭和 10 年から新構造には絵画を出品、彫刻的な構造を構図とデザインに秘めた陰影の深い作品は強い画面となっている。名古屋芸術大学の名誉教授

○**秋山賞** (あきやま賞：版画)

秋山静 (明治 4 1 年～平成 12 年:68 歳)

日本版画会では異色の作家である。新構造展には昭和 38 年から最初は油彩出品のちに版画に転向する。寄せ木という手法と青との融合の作品は異質で印象的な世界を醸成し、今でも画壇で秋山の青を超える青は生まれていないと言われている。

○**清浦賞** (きょうら賞：絵画)

清浦正風 (大正 13 年～平成 2 2 年：89 歳)

創立まもなく 1936 年から参加し神奈川支部設立に尽力し平成 9 年から本目勇市代表の後を継ぎ運営委員代表に就任。永く指導者として活躍した。

○**徳山賞**：(とくやま賞：絵画)

徳山巍 (明治 44 年～平成 2 年：86 歳)

岡山県出身。新構造展では一貫して日本の美的抽象画を探求し続けた。特に油彩による

金銀砂子散らしは高く評価を受けている。また、新構造社の運営委員として

抽象作家の発掘や若手作家の育成に努め、現在でも多くの薫陶を受けた作家が

新構造展に出品し活躍している。

他に**三村賞**、**岡田賞**がりましたが諸般の事情により現在は有りません。